

富山県リカレント教育等産学官連携推進会議小委員会での主なご意見

- 〔 第 1 回：令和元年 8 月 23 日開催 〕
〔 第 2 回：令和元年 12 月 23 日開催 〕

経済団体

- ・ リカレント教育が会社の仕事に役立つ、これからの仕事に役立つスキルを磨くということがメインになるのであれば、企業側が次にどういう方向に進もうとしているのか明確なものを従業員に打ち出していく努力が必要である。
- ・ 意識啓発が重要であり、企業の実務担当者の意識啓発、学ぼうとする人にどうやってPRするかが大事である。
- ・ そもそもリカレント教育が何たるかが分かっていない企業がほとんどなので、まずはその説明から始めるべきではないか。
- ・ 企業側も従業員側も 100%近くが「働きながらも受講できるもの」を希望しており、まずはここを押さえなければならない。
- ・ 企業側にとってリカレント教育を進めていく上で大事なことは、長期雇用を前提として処遇を改善することであり、従業員のモチベーションを上げなければならない。
- ・ 教育制度等がしっかりと整備されていない小さな企業とある程度大きな企業とでは事情が違う。ターゲットを明確にするべきではないか。
- ・ 他の団体で行っている研修やリカレント教育の情報などを一元化することができないか。

労働団体

- ・ 人手不足の問題などがあるが、従業員側としては、特に小さな子供がいる女性にとっては、平日の昼間に受講できる方がありがたく、企業側も従業員側もリカレント教育が必要であるとの認識であれば、企業側にはぜひとも従業員が勤務時間内に受講できるように配慮していただきたい。
- ・ 行政にも力をおかりし、助成金の充実や広報周知などをしっかりやれば、学びたいと思っている労働者の意欲がもっと高まるのではないかと思う。

高等教育機関

- ・ 自力で講座を継続していくとなると、受講生を集める必要があるため、対象がどうしても教育制度等が整っている大きな企業向けになってしまう。

- ・ リカレント教育には3つの壁があり、それは時間とお金と情報。県内でリカレント教育などの学び直しの機会を提供しているところは多いので情報が一元化されればよい。
- ・ 大学としては色々試行錯誤しながら、できるだけ企業の役に立てるような教育プログラムを開発していきたいと考えている。
- ・ 中小企業の社員の場合、情報が入手できて、いろんな人と交流できて、一緒に学べるといったリカレント教育の拠点が必要なのではないか。
- ・ まずは、リカレント教育がなぜ必要なのか、入口となるセミナーや講座が先にある、その後に必要だと思った人たちに受講してもらえるような専門的、実践的なプログラムを提供するという流れではないか。
- ・ 企業側は、勤務時間内であっても、従業員が受講しやすいような風土づくりが必要ではないか。

公的機関

- ・ 企業のニーズ、学ぶ方のニーズ、学習機会を提供する側のすり合わせが大事であり、他大学の取組みである企業のニーズに合わせたカスタムコースや出向講義とかは一つの方策だと思う。
- ・ この会議がどういったところに着地するかで、公的機関としてどういう協力ができるのか見えてくるのではないかと思う。